

V 総合学科の柱に位置付けている3科目の再構築

1 1年次「産業社会と人間」の取組

(1) 目的

- ① 2回のフィールドワークを通して自ら課題を設定し、解決する力を身につける。
- ② 4系列の体験学習を通して、自己の進路について考える。
- ③ 大学見学や企業説明会など各インターンシップの充実を図る。
- ④ 発表会を実施し、プレゼンテーション能力の向上を図り、発信力を養う。
- ⑤ 飯南高校の掲げる4つの力（対話力、追究力、創造力、発信力）を身につける。

(2) 年間計画

月	予定	実施
4月	仲間作りワークショップ 産業社会と人間ガイダンス 第1回フィールドワーク事前学習①	
5月	第1回フィールドワーク事前学習② 第1回フィールドワーク 第1回フィールドワーク事後活動	
6月	キャンパスインターンシップ キャンパスインターンシップ発表会	仲間作りワークショップ 第1回フィールドワークガイダンス
7月	進路フェスタ	第1回フィールドワーク事前活動 第1回フィールドワーク 第1回フィールドワーク事後活動
9月	4系列の学びガイダンス 4系列の学び①～③	4系列の学びガイダンス 4系列の学び①～③ 遠足
10月	4系列の学び④ 第2回フィールドワーク事前活動 第2回フィールドワーク 遠足	4系列の学び④ 第2回フィールドワーク事前活動 第2回フィールドワーク
11月	第2回フィールドワーク事後活動 第2回フィールドワーク発表会	第2回フィールドワーク事後活動 第2回フィールドワーク発表会
12月	模擬体験授業	模擬体験授業
1月	課題解決学習ガイダンス 課題解決学習①②	かけ算プロジェクトガイダンス かけ算プロジェクト①②（名前の変更）
2月	課題解決学習③～⑤ いいなんゼミ発表会見学 課題解決学習発表会	かけ算プロジェクト③～⑤ いいなんゼミ発表会見学 かけ算プロジェクト発表会
3月	プレいいなんゼミ発表会見学	プレいいなんゼミ発表会見学

(3) 今年度の活動内容

① 6月2日 仲間作りワークショップ

新型コロナウイルス感染拡大防止措置としての臨時休業が明け、学校再開にあたって生徒たちの学校生活や人間関係に対する不安を払拭するために、当初の内容を少し変更しワークショップを行った。

はじめは名前も顔もわからない状態でスタートしたため、生徒は不安な表情をしていたが、進むにつれて表情も緩みコミュニケーションが増え、それに比例して笑顔が増えていく様子が見られた。



② 7月14日 第1回フィールドワーク

フィールドワーク先として、飯南町は粥見、赤滝、深野、上仁柿、下仁柿、横野、飯高町では宮前、赤桶を設定した。当日は想定外の大雨であったが、「雨の日にししか見えないものがある」と生徒を鼓舞して8地区に向け出発した。

フィールドワーク中には、実際に地域を自分の目で見て、地域の方とコミュニケーションをとっている様子が見られた。また、新しい発見や気づきを産社ノートやデジタルカメラに記録している様子もみられた。

あいにくの雨ではあったが、フィールドワークを終えて学校へ戻った生徒のほとんどが、「楽しかった!」「地域の方がすごく優しかった!」「またフィールドワークに行きたい!」と肯定的な意見を伝えてくれたのが印象的だった。



フィールドワーク実施後、フィールドワークを通して各班が発見したものや興味をひいたものを班で協力して模造紙にまとめ、魅力マップを作成した。生徒たちは魅力マップ作成を行う中で、改めて飯南・飯高の魅力をも再認識するとともに、フィールドワークへ行く前に立てた自分の予想と結果を比較した。多くの生徒がフィールドワークで新しい発見をしたり、神社や寺の成り立ちに疑問を持ったり、地形に対して疑問を持つことができた。さらに、地域住民と触れる機会も多数あり、地域の方々の優しさや地元愛を体感することができた。

完成した魅力マップは校内に展示し、2・3年生および保護者会期間中であつたため来校した保護者、さらにはコンソーシアムの方々にも見ていただき、アンケート用紙に質問やアドバイスをいただいた。そのアンケートから出てきた疑問点を集め、第2回フィールドワークの探究活動へつなげた。



③10月28、29日 第2回フィールドワーク

2回目のフィールドワークは前回は踏まえて、「飯南飯高地域をより深く知る」ことをテーマに1回目と同じメンバーで同じ地域で行った。事前学習については、教員側が提示するのではなく、「自分たちで調べ、わからないことがあれば大人に聴く」という手法をとった。すると校長室に行き校長に質問をする生徒や、飯南飯高の振興局に電話をして必要な情報を得ていた生徒など、想像以上の活動を行う生徒が多数いた。



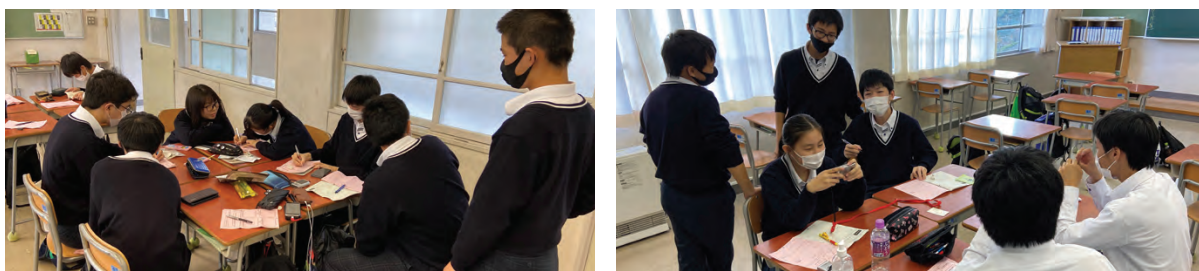
事前学習の様子

1日目の活動は、事前学習で立てた行動計画を元にスタートした。下の写真からわかるように、ほとんどの生徒が地域のモノや建物を見るだけではなく積極的に地域の方とふれあい、コミュニケーションを取り、そこから調べるだけではわからない情報などを得ることができた。



1日目の様子

午後からは学校へ戻り、深めたことや新発見を各グループで再確認した後、2日目の行動計画を立てた。各班とも午前中に得た情報から次の新しい活動へとつなげるため、積極的に連絡を取ったりアポイントを取ったりと主体的に行動していた。



1日目の振り返りと行動計画の様子

2日目の活動は、前日に立てた行動計画を元にスタートした。積極的にコミュニケーションをとっている様子は1日目と同じであったが、大きく変化したところは下の写真にもあるように、藍染めや鍛冶屋で話を聞くだけでなく実際に体験をさせていただいていたところである。その体験の中で、この地域での藍染めの歴史や文化の継承、また「この地域でなぜ鍛冶屋なのか」など質問する様子もうかがえた。



2日目の様子

2日目の午後も学校へ戻り、深めたことや体験してきたこと、その中で見えてきたことを各グループで振り返り、まとめのパワーポイント作成など発表の準備にあたった。

④11月17日 第2回フィールドワーク発表会

前回フィールドワークでは班ごとの魅力マップを成果物として作成したが、今回は個人でパワーポイントを作成して発表会を行った。各生徒がフィールドワークを踏まえて深めた内容や感じたことに加え、発見した課題や解決策の提案などを発表に盛り込んだ。次のスライドは、生徒の作成したパワーポイントである。

横野を旅して
～ダニエルと愉快な仲間たち～

フィールドワークの目的

- ①飯南高校があるこの飯南・飯高地域はどのような町で、地域の魅力や課題について知ること。
- ②地域の人たちとのかかわりを通して、飯南高校の掲げる四つの力（対話力・追究力・創造力・発信力）を身につけること。
- ③五感（視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚）を使うこと

私が担当した地域は！ **横野**

横野ってどこ？

何があるの？

班員

フィールドワーク 当日！！

宝積寺

渡辺 直人さん の話

- ・横野神社のものを少し参した
- ・一回昭和三年に建てられた
- ・五年前にここに来たので良くわからない
- ・石壇にいろいろ書いてある
- ・旧御座→お寺の下の道「吾はバスも通っていた」
- ・江戸時代に建てられた

柿野神社

「柿野神社には誰もいませんでした」

柿野神社ではお賽銭を入れそれぞれお願いをしました

おみくじも引きました！！

結果がすごく面白かったです！！

（一回100円！！）

福祉センター

・飯南高校から福祉センターに就職した先輩方にお会いしました！！

飯南高校は就職率が良く介護福祉につく人も多いです！

・一つ一つの部屋に案内していただき介助について深く知ることができました

いきなりの訪問でしたが丁寧に対応していただきました！

福祉センター

『保育士支援センター』

- ・育児の悩みについて話を聞いてくれるところ

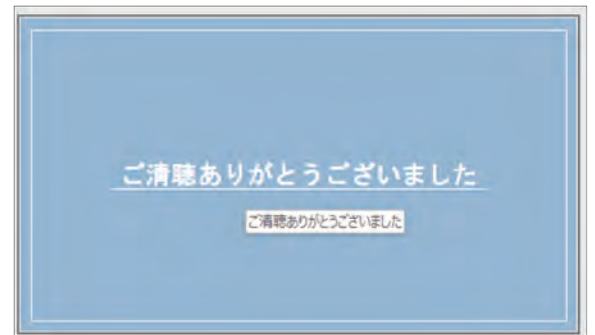
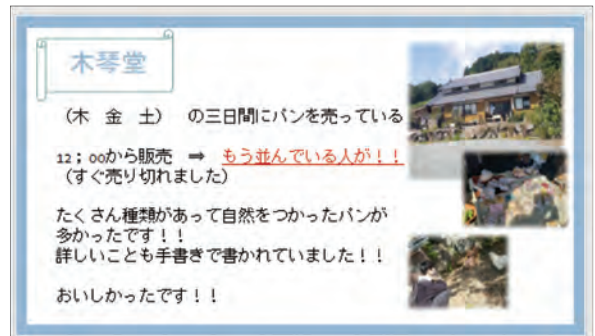
その間に子供と一緒に遊んで親を待つスペース

お話を聞かせていただきました!!

～横野の歴史～

- ・伊勢湾台風 ⇒ 道が崩れた（立ち退きする人も）
- （昔）印刷屋・パチンコ・百五銀行・菓子屋 など
- 飯南高校の制服を作っていたところもあった

川側の家には地下室がある



⑤ 1月12日～2月9日 かけ算プロジェクト

昨年の「課題解決学習」の名称を変更し、「かけ算プロジェクト」として行った。

言葉として「課題解決」と出てくると難しく感じてしまった昨年度を反省し、より生徒にも魅力的なタイトルとした。内容については昨年度と大きくは変わらないが、まずは物事を調べ、その物事について他地域の同じような事柄と比較をし、比較した中から他生徒へ情報発信したくなるような事柄（かけ算の答え）を見つけ、提案するという流れに変更した。

かけ算プロジェクトをスタートする際の生徒ガイダンスでは、右のように具体的な例を挙げて「飯南飯高地域×高校生」を強調した。また、生徒個人が出した「かけ算の答えはすべて正解である」ことも強調し、2回のフィールドワークで得たことや気づきなどを大切にさせた。

～まずは振り返り～

【何を学ぶか 4つの力】

～授業社会と人間を通して身につけてほしい力～

コミュニケーション能力	⇒	()
物事を調べる力	⇒⇒⇒⇒	()
答えを導き出す力	⇒⇒⇒⇒	()
想いを伝える力	⇒⇒⇒⇒	()

【活動の名称 “かけ算プロジェクト”】

× = 掛け合わせる・コラボレートする

飯南・飯高地域 × 飯南高校生 = 自分なりの答え

あなた個人の知識・経験や
気付き・疑問・思考や
師匠・特技などをかけてみる!

～〇〇してみた!
～むなしくなる!
～現状の維持や継続向上
～情報発信の力
～課題の解決策
など

【あるふしかけ算の例】

・飯高の林業 × 飯高高校生
= 木の手帳

・新型コロナウィルス × 飯高高校生
× 本気の花火師
= 文化祭での打ち上げ花火

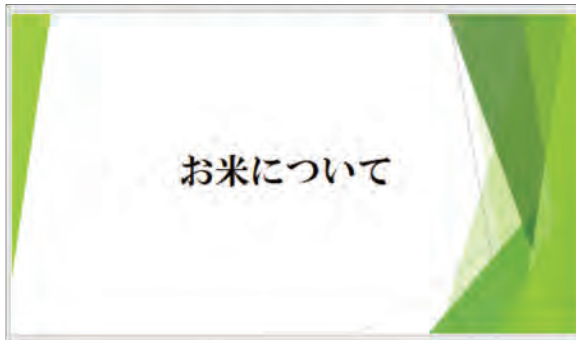
木の手帳

いいな 飯南 その手帳

マルブ

⑥2月16日 かけ算プロジェクト発表会

6つのグループに分かれ、かけ算プロジェクト発表会を行った。比較の対象やかけ算の内容も様々で、生徒・教員ともに実りのある発表会となった



テーマを選んだ理由
 第1回、第2回フィールドワークを通して長井さんのお米の作り方に魅力を感じたから

今回の着目点

- ①長井さんのお米に対するこだわりは何か？
- ②他の地域の農家さんと比較
- ③有間野ってどんなところ？
- ④他の地域の農家さんと比較
- ⑤まとめ

①有間野ってどんなところ？

- 面積 11.402.450m²
- 周辺長 15.110.05m = 約15km
- 人口 316人
- 自然いっぱい！！！！！！
- 地域の人と親しみやすい

②長井米生活農場って？

環境・土・水・人・想い 故郷の味を守り続けたい

- お米を販売 種類も豊富！
- 甘〜いスイートコーン 期間限定販売
- その日取れた分だけ提供 県外からやってくる人も！

〒515-1413
 三重県松阪市飯南町有間野896
 ☎0598-32-3766

③長井さんのお米に対するこだわり

- 世界で1つしかない機械
- 有間野を生かした公害対策
↑
「わざわざ山の中で育てることで被害を受けやすい」
- お米でできたもの無駄にはしません
- 自分で作ったお米でおにぎり屋さん

【ハナハ】

④他の地域の農家さんと比較

- 櫛田川の清流
- お米から取れるもの全て使います！

ex モミガラくん炭

主な効果
 排水性や通気性が良くなる・根っこが伸びやすくなるなど

- お米だけじゃないんです
- 山で作業しています

魅力

- お米に対するこだわりが強い
- 美味しい
- 環境のことを考えている 人柄

課題

- 人口 減
- 異常気象による収穫率減少
- コロナでの売り上げ減少

この魅力を他の人たちにも発信したい！

ご清聴ありがとうございました

参考URL

- Sanrinsha.way-nifty.com
- irasutoya.com
- Nagai88.jp

⑦今後の課題

今年度の「産業社会と人間」では、昨年度の取り組みを継承しながら、反省点や問題点を踏まえ改善しながら取り組んだ。また、地域を学び場とした活動を通して地域への愛着を持ち、地域に貢献できる地域に根ざした人材の育成を目的として1年間活動してきた。

第1回フィールドワークを実施した時期が7月上旬へと延期されたことで、結果的に時間の余裕が出たため、昨年度に比べて十分な事前学習の時間を確保することができた。また、今年度は各班に教員がつかず生徒たちに自由度を与えた。その結果、教員が想定する範囲を超えた行動をとる班も複数現れた。自由度を与えても特に大きなハプニングもなく、むしろこちらが望んでいた以上の成果が現れたように感じた。

第2回フィールドワークも1回目と同様に、生徒たちに自由度を与えて活動させた。事前活動の中での反省点は、アポイントを取る際に余裕を持って連絡するのではなく、直前になって連絡している生徒が多かったことである。このことについては、先方へ余裕を持って連絡しなければいけないと、もう少し強く生徒に伝える必要があると感じた。

かけ算プロジェクトについては、実施直前に名称変更となった。生徒ガイダンスの際に教員からの説明が上手く生徒へ伝わらずに、かけ算の答えを出す際に戸惑っている生徒がわずかではあるが出てしまった。もう少しわかりやすく丁寧に説明すべきだったと感じる。

2 2年次「キャリアデザイン」の取組

(1) 目的

「産業社会と人間」と「いいなんゼミ」をつなぐ、地域課題解決型キャリア教育の中間点と位置付けている。企業見学会や外部講師による講演会での出会いや、インターンシップで仕事に触れながら、リアルに地域社会で生きることを考える力を付けていく。また、修学旅行で得た知識を比較したり、プレいいなんゼミで考えを深め整理したりして、自己の在り方や地域との関わりを認識し、自分づくりを深めていく。

- ①将来への関心を高め、積極的に調べたり体験したりし、働くことへの意識を高め、意欲的に学ぶ態度を身につける。他者との対話を通じて学びを深め、コミュニケーションを意欲的にとる力を身につけ TPO を判断し、適切な振る舞いを行う。
- ②体験したことや聞いたことを通じて、地域生活や働くことに対して考える力を身につけ、進路に対し追究し、聞いたり質問したりして思考を深め、報告書作成を通じて、自らを表現する力を身につける。
- ③体験した内容を整理し、内容を正確に伝えるためのプレゼンテーション技術を身につけ、調査・研究を通じて、自らの考えを適切に表現する。
- ④進路に対する知識を増やし、最適な進路実現に向けて情報を比較することができ、自らの長所や短所を知り、社会の構成員として自らの能力を発揮できる場を探せるよう、社会の仕組みを理解する。

(2) 今年度実施内容

月	取組	内 容
4月	オリエンテーション	2年次の方針ガイダンス キャリアデザインガイダンス
	講話	保健講話、生徒指導主任講話、進路指導主事講話
5月	休校	(新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言)
6月	ライフコース	将来設計、個人の一生の間にたどる道筋を考える
	自己分析・エゴグラム	自分の強み・弱みの整理(自分の適性を知る)
7月	キャリアインターンシップ	インターンシップの計画、準備(対象:職場体験、地域ボランティア、オープンキャンパス等)
	本気の大人講演会①	自然養鶏学習農園「亀成園」 成岡真清氏 講演
	基礎学力診断テスト	基礎学力診断テストの実施、SHRの学びでOne-Week トライアルに取り組む
8月	インターンシップ実施	夏季休業中に体験(今年度に限って1日~3日)
9月	インターンシップのまとめ・発表	パワーポイントを使い作成し、プレゼンテーションを行う
10月	進路ガイダンス①	大学や専門学校から講師をお招きし、分野別に模擬授業を行い進路決定に役立てる

11月	文化祭関係 本気の大人講演会②	舞台発表・展示・模擬店に分かれて実施 「浅井農園」 浅井雄一郎氏 講演
12月	企業交流会	地元企業 18社に参加いただき、ブースに分かれて交流会を実施
1月	プレいいなんゼミ 基礎学力診断テスト	テーマを設定し、研究計画を立てる 基礎学力診断テストの実施、SHRの学びでOne-Week トライアルに取り組む
2月	プレいいなんゼミ	自らの課題について研究・調査・検証を行い、3年次の 「いいなんゼミ」へと繋げる
3月	プレいいなんゼミ発表会 「いいなんゼミ」テーマ決定 本気の大人講演会③ 進路ガイダンス②	グループに分かれ、2年次の集大成として2カ月間の 成果を発表 3年次の「いいなんゼミ」のテーマを決定する J A松阪 福山浩隆氏 講演 就職・進学に分かれて実施 大学や専門学校から講師をお招きし、分野別に模擬授 業を行い進路決定に役立てる

(3) 今年度活動内容

①キャリアインターンシップ（7月～9月）

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で実施が直前まで危ぶまれた。しかし、6月下旬から7月上旬にかけて、地元企業からのオファーをいただき、例年より規模を縮小しての実施に至った。

ア 三重化学工業株式会社

NPO法人 **atrio** が行っている、広域公募型の高校生インターンシップに本校生徒3名が参加した。主に保冷剤と作業用手袋の企画開発・製造を手掛ける企業での体験を通して、すべて同じではなく用途に合わせて性質を変えるなど、製造についての工夫がされていることを学んだ。また、保冷剤の製造に興味を示し、商品の提案なども意欲的に行った。

イ 松阪飯南森林組合

8月19日から21日の3日間、本校生徒6名が参加した。1日目は森林と林業について学んだ。2日目はチェーンソーの操作体験や伐倒体験を行った。最初は恐怖心で腰が引け弱々しく感じたが、丁寧な指導もあり徐々に操作にも慣れ、逞しく感じるほどであった。3日目はドローン操作体験と測量体験を行った。ドローンを活用して獣害などの対策や整備を行っていることを知り、生徒達は目を輝かせていた。

ウ 有限会社 上野屋

8月24、25日の2日間、本校4名の生徒が参加した。松阪市飯高町でこんにやくの製造・販売、ガス器具の販売を営む企業でガスの交換作業やこんにやく工場でのこんにやくの箱詰め作業などを体験し、地元地域で働くことの魅力や大切さを学んだ。

エ 株式会社 三ツ知製作所

8月25、26日の2日間、本校6名の生徒が参加した。松阪市飯南町で冷間鍛造による自動車部品の製造を行う企業での実際に機械を使っての部品切削作業や分別、梱包作業を通してミスは許されない緊張感や仕事の大変さなどを学んだ。

オ 伊勢深蒸し茶専門店 深緑茶房

8月20、21日の2日間、本校生徒6名が参加した。松阪市飯南町でお茶の生産から加工、販売まで一貫して行う企業のカフェで接客や摘み取った茶葉から日本茶を作る体験をさせて頂いた。その中でお茶作りの大変さやコミュニケーション力の必要性を改めて感じる事ができた。

カ 自然養鶏農園 亀成園

7月に実施した「本気の大人講演会」をきっかけに何人かの生徒が興味を示し、インターンシップが実現した。8月31日、本校から4名の生徒が参加した。松阪市飯高町でゲストハウス併設の自然養鶏農園を営む亀成園での鶏への餌やりや薪割り、農家体験を通して自給自足の大切さや大変さを身を持って知ることができた。

キ 飯南いきいきキッズ

8月23日に本校生徒2名が松阪市にある流水プールで行われた、小学生カヌー体験の補助員として参加した。小学生に水の危険性を教え、ライフジャケットの正しい着用法やカヌーの操作方法を指導する体験を通して、物事を理解して人に教えることの大切さや難しさを学んだ。

インターンシップの様子



三重化学工業株式会社



有限会社 上野屋



株式会社 三ツ知製作所



伊勢深蒸し茶専門店 深緑茶房



自然養鶏農園 亀成園



飯南いきいきキッズ



松阪飯南森林組合

②「本気の大人」講演会（7月・11月）

「本気の大人」講演会は、地域の企業人、「本気の大人」との出会いを通じて、過疎化地域での仕事や生活等の課題・魅力について考える態度を育てる狙いがある。7月22日には自然養鶏農園「亀成園」の成岡真清（ますが）氏より、都会から飯高地域へ移住し、自然な方法で養鶏を中心に農業を行う生活についての講演を聴いた。

講演は、飯高で生活する「豊かさ」について考えさせる内容であった。養鶏では、効率を考えた密集した飼育方法はかえって病気になりやすい。香肌峡の自然豊かな所で、自然な育て方で、おいしい卵を作りたい。その方法は、養鶏にとどまらず、農業、子育てにもつながる。自然から学ぶことは多く、「生きる力とは好奇心」と何でもおもしろがることの大切さを聞くことができた。生徒は、自分たちがフィールドワークをした地域であることから、終了間際まで集中を切らさずに聞くことができた。生徒は、なぜ他の地域でなく飯高を選んだのか質問し、成岡氏からの「飯南飯高の植物の多様性はとても豊かで、この山々に日本のほぼすべての木々がある」との答えに驚いていた。



11月11日には株式会社浅井農園代表取締役の浅井雄一郎氏を迎え、AIを活用した先進的なトマト栽培の実践の講演を聴いた。生徒の住む地域の近隣スーパーには、この企業の目をひく綺麗なトマトが販売されている。それを生むに至った志を聴くことができた。浅井氏はマイナスイメージが強い園芸農家に生まれたが、世界に目を移すと、農産物の市場は世界の人口増に伴い、膨張している。AIなどの技術で、おいしくて美しいトマトを作るだけでなく、社員が働きやすい職場になるような研究もしている。会社が求めている資質はという質問には、「素直さがとても大切で、疑問に思ったことや改善策を実践にうつしている」と回答いただいた。社員全員が研究テーマを持って働いており、本校のいいなんゼミに通じる話であった。



3月には本校の卒業生で、松阪農業協同組合の介護部門の職員である福山浩隆氏の講演を予定している。福山氏は本校の介護福祉系列を卒業し、現在の会社に入社後は新しいデイサービスセンターの立ち上げに加わっており、その経験について聴くことになる。

③「高校生と地元企業との交流会」(12月)

三重県商工会連合会が主催する地元企業との交流会に2年次生全員が参加した。会場となった本校体育館には18社の企業担当者が各ブースを作り、1回あたり15分で計5回の交流を行った。生徒は事前に交流希望企業を選び、各自のプログラムを組んで交流を進めていった。

昨年度はこの会をきっかけに進路決定をした生徒が多数出てきた。現時点では地元の飯南・飯高地域に就職を希望する生徒は必ずしも多くはないが、1年次にフィールドワークでお世話になった企業も参加しており、就職という視点から改めて興味がわき、積極的に交流を希望する生徒も多くいた。そして参加企業は様々な地域、様々な規模、それぞれの特色があるため、生徒がこの交流会に参加することは、単なる企業選びだけでなく、地域の比較や企業を通しての魅力発見にもつながる可能性を含んでいる。

今年度はコロナの影響もあり、マスクを着用して距離をとっての交流となったため、お互いの声が聞きづらい場面もみられ、交流をする上で厳しい環境ではあった。また今年度は、昨年度交流会の様子を見た飯高中学校の校長からの強い希望があり、中学2年次生も参加して高校生と一緒に交流することとなった。

事後のアンケートでは、生徒ほぼ全員が「良かった」と回答し、感想では「わかりやすかった」「就職の幅が広がった」だけでなく、「豊栄工業さんの自分の好きなことは、自分にとって必要なものという言葉がよかった」など、詳しく感想を述べる生徒もいた。

昨年度については、小規模の企業の若い経営者本人が語る言葉に魅力を感じた生徒が多くいた傾向にあった。今年度は安定志向であり、「万協製薬」「三ツ知製作所」などの卒業生が就職し、馴染みのある企業が多く生徒を惹きつけていた。また、生徒の企業選びの基準上位は、「職場の雰囲気」「業務内容」「給料」であり、昨年度と変化はみられなかった。



【主催】

松阪香肌商工会、松阪北部商工会、多気町商工会、明和町商工会、三重県商工会連合会

【参加事業所名（業種）】

有限会社上野屋（食品製造・LP ガス販売）、三重金属工業株式会社（製造）、松阪飯南森林組合（林業）、豊栄工業株式会社（プラスチック射出成形）、株式会社三ツ知製作所（自動車部品製造）、茶来まつさか株式会社（製茶業）、有限会社ケー・アイ飯南（輸送用機械器具製造）、株式会社名阪真空三重工場（製造業）、有限会社長井米生活農場（農業（水稻）・八十八屋経営）、有限会社深緑茶房（農業（茶））、株式会社伊勢の国佃煮かね万（佃煮製造業）、有限会社野瀬商店（大豆加工品生産）、純板金（建築板金）、万協製薬株式会社（医療品製造業）、株式会社高正工務店（建築業）、ポーラ美南グランドグループ（エステ・化粧品販売業）、株式会社タキ（製造業）、株式会社ライジング明和工場（製造業）

（４）検証

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、例年実施している企業見学会や進路フェスタを開催できなかった。しかし、その時間を有効に活用し、自己分析やエゴグラム等の自己を見つめ直し、自身の特徴や性質を言語化する活動を行った。その結果、就職試験等で必要になる自分の強みなど、自分のことを知らない企業に対してアピールできる内容をしっかりと整理することができた。そして、8月に行ったキャリアインターンシップでは興味・関心を持っていることに対して、自らの力で職場体験などのインターンシップを計画・立案、実施することにより、生徒の学ぶ意欲を大切にして、一人ひとりの力を伸ばす支援につながった。

「本気の大人」講演会では、地域の企業人や「本気の大人」との出会いを通じて、過疎化地域での仕事や生活等の課題・魅力について考える態度を養うことができた。この講演会をきっかけにインターンシップの体験を望んだ生徒や、飯南・飯高地域で就職したいと申し出る生徒も何人かおり、今後につながる取組であったといえる。

また、基礎学力の定着としては、基礎学力診断テストを7月と12月に受験した。テストに向けたSHRの10分間の学びでは、One-Week トライアル（国語・数学・英語）の学習を計画的に取り入れた。生徒が主体的に学ぶ仕掛け作りとして基礎学力診断テストの振り返りを行い、基礎学力向上の到達点を一人ひとりに意識させた。

3学期の「プレいいなんゼミ」では、自身の興味・関心のある事柄について調査・研究・検証する取組の中で、追究力を養うことができた。また、パワーポイント作成や発表練習を積極的に行うことで発信力を向上することができた。来年度の総合的な探究の時間「いいなんゼミ」に向けた準備学習にしっかりと取り組むことができた。

概ね2年次「キャリアデザイン」の目的は達成できたと考える。ただ、10月に予定していた修学旅行が新型コロナウイルス感染症の影響で令和3年6月に延期予定となっている。進学・就職試験を間近に控えた状態での開催となり、時間的・計画的に余裕がなく厳しい状態である。その中で残された2年次「キャリアデザイン」の授業を有効に使い、平和学習等を真摯に取り組んでいきたい。